

KAAT竹本駒之助公演 第二弾

記者懇親会レポート

— 駒之助師 泉岳寺に成功祈願お参り、記者懇親会行われる —



女流義太夫・人間国宝・竹本駒之助師をフィーチャーする「KAAT竹本駒之助公演」の第二弾が、2月1日・2日行われます。今回の演目は『太平記忠臣講釈』七段目「書置の段」。元禄赤穂事件を描く「忠臣蔵」物の代表作のひとつで、「書置の段」は最大の秘密である「仇討の決意」を隠しながら、四十七士がそれぞれの家族と最後の別れを遂げる「銘々伝」の典型的作品です。去る12月25日、公演の成功を祈願して、駒之助師による泉岳寺・赤穂義士墓地のお参りと記者懇親会が行われました。

記者懇親会は、まず、公演当日の解説を担当される神津武男氏による『太平記忠臣講釈』および七段目「書置の段」についての解説からスタート。作品の成立背景や「書置の段」のあらすじとともに、主人公・矢間重太郎と、その父である喜内に焦点をあて「喜内住家の段」として上演されることが多いこの段ですが、今回は、重太郎の妻・おりゑによる「書置」（遺書）が読まれる場面を書き添えた作者・近松半二の作意を活かすべく、大坂板五行本にある「書置の段」という段名で上演することなどが説明されました。武家の嫁でありながら生活のために「辻君」（下級の娼婦）となるおりゑをはじめ、今回の登場人物はみな、隠しごとをしている。その複雑な機微を語り分ける駒之助師の表現力に注目してください、と聞きどころの説明がありました。

続いて駒之助師によるお話では、この曲「書置の段」を、大阪で内弟子に入った竹本春駒師が、素人弟子に教えるのを脇で聞いて覚えたことや、その後ついた豊竹若大夫師の思い出、竹本越路大夫師のもとで修業を積むうちに、義太夫節のおもしろさに開眼し勉強を重ねていったこと、前後に入門者がなく珍しい女の弟子だったからこそ、たくさんの師匠に恵まれたこと、などが語られました。

今回初めて赤穂義士の霊前に手をあわせた師匠は、「お参りできてよかった。四十七士の義士の思いを身近に感じます」と述べられました。

11月にKAATで行われた『和田合戦女舞鶴』の時と同じように、今回も「役の性根をつかんで、教わったまま忠実に語りたい」と抱負を語られました。



2013年11月KAAT初お目見得公演より『和田合戦女舞鶴』三段目ノ切「市若丸初陣の段」

【公演情報】

KAAT 竹本駒之助公演 第二弾 『太平記忠臣講釈』七段目「書置の段」
出演：竹本駒之助、鶴澤津賀寿
2014年2月1日（土）・2日（日）15：00
KAAT 神奈川芸術劇場〈大スタジオ〉
全席自由4,000円（税込）
チケットかながわ --- 0570-015-415

懇親会で語られたお話をもとに、

「竹本駒之助・女流義太夫一代記」その2を近日中にアップする予定です。ご期待ください。